小鷹研究室が考案する「身体の伸縮感覚」「幽体離脱・重力反転感覚」「頭部離脱感覚」「身体の透明化」「ボディジェクト感覚」（身体のモノ化）などの錯覚を体験できます。HMD（ヘッドマウント・ディスプレイ）を使ったVRコンテンツや鏡の効果を使った錯覚装置をはじめとして、その多くが実際に装置を体験してもらうことによる参加型の展示となります。

QRコードをスキャンしてね

［特設HP］

展示に関する注意

ウイルス対策として、展示会場の入場数については一定の数に制限するとともに、来場者にはマスクの着用と体験前の手の消毒をお願いしています。また、体温が37.5度以上の方は入場をご遠慮いただきます。あらかじめご了承ください。なお、HMDの利用については、一般のガイドラインに従い、7歳未満の方はご利用不可、7歳以上13歳未満の方は体験前に保護者の同意が必要となります。

スペシャルプログラム

有料プログラムの参加者全員に、錯覚レクチャーの内容をまとめたブックレットをプレゼントする予定です。

11月28日（土）

［ゲストトーク］料金（1500円）

「気持ちいい」と「気持ちわるい」の錯覚論、メディアアートとの対話

時　間：14時～16時30分
登壇者：谷口暁彦（多摩美術大学・アーティスト）
　　水野勝仁（甲南女子大学・インタフェース研究者）
　　小鷹研理（名古屋市立大学）
定　員：25名程度を予定（申込方法は、11月上旬に［特設HP］上で告知）
協　賛：名古屋市立大学・環境デザイン研究所
場　所：7th Cafe（ナディアパーク7F）

小鷹研究室による錯覚の体験では、「気持ちいい」と「気持ちわるい」の感覚が表裏一体となって襲ってくることがあります。この種の不安を伴う体感は、当人にとって極めてリアルなものでありながら、サイエンスの言語で記述するには抽象度が高すぎるため、その正体は十分に解明されていません。他方で、近年のメディアアートのシーンでは、小鷹研究室と同質にもみえる「気持ちわるい」の認知体験を与える作品が散見されており、そうした作品が生まれる素地を読み解くことは、錯覚研究にとっても新鮮な視点を与えるものと考えられます。

本トークでは、2010年代以降のメディアアートを代表する作家であると同時に、批評的な視座で近年ではキュレーションも手がける谷口暁彦氏と、豊富な論考で近年のメディアアートにおける重要作品の“体験翻訳”を一手に引き受けている水野勝仁氏をゲストとしてお呼びし、一人称体験における「気持ちわるさ」の現代的意義を探っていきます。

※ 定員超過の場合、ナディアパーク内の別会場にて同時中継（無料）を予定しています。

11月29日（日）

［錯覚レクチャー］料金（1000円）

注文の多いからだの錯覚の研究室、23のメニューブック

時　間：13時～15時
講　師：小鷹研理（名古屋市立大学）
　　佐藤優太郎（同芸術工学研究科・博士後期課程在学中）
定　員：20名程度（小学生以上）を予定
　　（申込方法は、11月上旬に［特設HP］上で告知）
場　所：7th Cafe（ナディアパーク7F）

小鷹研究室は、これまでに学会やワークショップなどを通して、特別な装置を介さずに、手ぶらな状態からトライできる「からだの錯覚」を数多く発表しています。本レクチャーでは、小鷹研究室がアレンジした23の「からだの錯覚」を順に体験してもらうとともに、参加者全員の感度分布（感じる感じないマップ）を相互に共有することで、普段は自明すぎて省みることのない「身体がまさに身体であると感じられる理由」を考えます。

注意事項：ペアになって体験するタイプの錯覚が複数あるため、来場の際はご家族などペアでの参加をお勧めします。お1人での参加の際もご希望に応じてスタッフが一対一で対応します。なお、スタッフはマスクやフェイスガード等を着用します。

［小鷹研究室とは］

「からだの錯覚」を中心テーマとして標榜している、日本で（おそらくは）唯一の研究室。研究テーマは、幽体離脱、重力知覚変調、身体の伸縮感覚、セルフタッチ、影・鏡・イラストによる所有感の変調など多岐にわたる。昨今、目まぐるしく刷新を繰り返すバーチャル・リアリティー（VR）技術を積極的に導入し、「具体的に体験可能なインタラクション装置」のなかで設計された一見すると異質な「からだ」のリアリティーを、様々な科学的尺度で検証する。主宰者である小鷹研理は、2019年に認知科学会より第7回野島久雄賞を受賞。

近年の主なVR関連の発表に、手足が伸びる体験装置「Stretchar(m)」（UNITY Award in EC2017, Siggraph Asia 2017）/「Elastic Arm Illusion」（Finalist in VR Creative Award 2018）/「Elastic Legs Illusion」（CHI 2020）、幽体離脱体験装置「Recursive Function Space」（Siggraph Asia 2017）/「Self-umbrelling」（Siggraph Asia 2018）など。

2019年、鏡とディスプレイを組み合わせたインスタレーション「ボディジェクト指向」が、第22回メディア芸術祭・アート部門の審査委員会推薦作品に選出され、同年アルスエレクトロニカのキャンパス展に出品。また、「ボディジェクト指向」より派生した錯覚「Bodiject Fingers」が、Best Illusion of the Year Contest 2019のTop 10に選出され、国内外で多くのメディアに取り上げられる。

2015年より5年にわたって、毎冬に研究室展示『からだは戦場だよ』をやながせ倉庫・ビッカフェで開催し、この中で、新作の展示に加え、アーティストや批評家をゲストとして招待するトークセッション、錯覚レクチャー等を自主企画。そのほか、2016年に岐阜駅でワークショップ『おとなのからだを不安にさせる13のワーク』、2017年に『さわってビックリ！見てフシギ？ 人間の皮膚』（名古屋市科学館）、2019年に『大名古屋電脳博覧会2019』（市民矢田ギャラリー）に参加。

［アクセス］

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄3-18-1

地下駐車場有り（有料 300円/30分）

【電車の場合】（名古屋駅より）名古屋市営地下鉄東山線・藤ケ丘・星ケ丘方面行で「栄駅」下車（所要約4分）、7・8番出口より徒歩（7分）。あるいは「栄駅」で名城線・左回りまたは名港線・名古屋港方面行に乗換え、「矢場町駅」下車（所要約2分）、5・6番出口より徒歩（5分）。